

ることは可能であろう。

ここまでで見てきた個々の地域を統括する傾向をとらえてみよう。言語的、社会的、地理的要因などによって、例外的な事例も見られることに留意した上であえて述べると、カナリアス諸島、アメリカスペイン語の大部分の地域では、単純過去形が発話時と関連をもつ過去の事象を表せる点で、この形式の意味領域が広く、その分優勢を示している場合が多いと言えそうである。同じ文脈で現在完了形が用いられることの多い半島スペイン語との違いはやはり明瞭である。こうした意味では、2.2.1.~2.2.3.でとりあげた大局的な観点からの研究に見られた、「半島スペイン語型」と「アメリカスペイン語型」という二分法は、実際の使用状況がある程度まで反映させている点で有効と考えられ、本論文でも以降こうした二分法を(留保付きながら)用いていくことにする。

2.3. 個別検証—メキシコスペイン語の単純過去形と現在完了形

前節2.2.では、半島スペイン語とアメリカスペイン語という大局的な観点から、続いて個々の地域について、二形式の機能分担のバリエーションを概観した。この節では、単純過去形優勢型の代表としてとりあげられることも多いメキシコスペイン語に焦点をしばり、各形式の実際の頻度、実例を詳しく分析し、半島スペイン語との比較を試みる。

まずは、2.2.2.で見た *Cartagena* の記述でもとりあげられていた *Lope Blanch* (1961)によるメキシコスペイン語の個別研究と、メキシコの新聞記事の調査に基づく寺崎 (1979)を参照し、調査の準備とする。

2.3.1. *Lope Blanch* (1961)

Lope Blanch (1961: 374-375)は、メキシコスペイン語における単純過去形優位の状況について、現在完了形が衰退の過程にあることを意味しているのではなく、また二形式の間に使用上の混同があるというわけでもなく、単に二形式の意味的区別が半島スペイン語とは異なっているに過ぎないとしている。半島スペイン語の場合、二形式の差異はアスペクト的というよりも時制的に明瞭に規定でき、過去の事象が「現在」と保つ関係性の違いに帰せられるとする。一方、メキシコスペイン語の状況はかなり異なり、二形式間の違いは基本的にはアスペクト的なものであるという。*Lope Blanch* (ibid.: 376)が図式化している各形式の基本的価値

“valores fundamentales”)を表に置き換えると次のようになる⁴⁸。

	valores aspectuales	valor temporal
Pretérito simple	a) perfectivo	pasado
	b) puntual	
Pretérito compuesto	a) durativo	aún presente
	b) reiterativo	

まず各形式のアスペクト的特徴が説明される。単純過去形は a) “perfectivo”の価値によって、完了的な行為を表し、一方現在完了形は未完了的な行為を表す。動詞の行為が完結したものとして提示される時には、その完了に達する時点がいかなる過去の時点であろうと常に単純過去形が用いられるとする。

“El pretérito simple expresa acciones *perfectas*, en tanto que el compuesto enuncia acciones *imperfectas*. Siempre que el fenómeno verbal se presente como terminado, como concluído, se usa el pretérito simple, sea cual fuere el «momento» del pasado en que haya alcanzado su perfección.”

「単純過去形は完了的な行為を表す一方、現在完了形は未完了の行為を述べる。動詞の表す現象が完結・終了したものとして提示される時は常に、その完了に到達した過去の時点がいかなるものであろうと単純過去形が用いられる。」

[Lope Blanch, *ibid.*: 376-377]

例えば、副詞“ya”を含む文では動詞は常に単純過去形をとるという。

¡Al fin! ¡Ya lo acabé! 「ついに終わったぞ！」

¿Ya viste esa película? —Sí, ya la vi. 「もうその映画を見た？」 「うん、もう見たよ。」

また、発話時を含む時間表現と共に起る場合も、その事象が完結していると見なされれば単純過去形が用いられるとしている⁴⁹。

⁴⁸ このほかに、Lope Blanch (*ibid.*: 382-383) は各形式に“valores secundarios”を認めている。これらは“valores fundamentales”から派生する価値によって転用される場合である。単純過去形は、直前過去形、過去完了形、未来完了形の代わりに用いられることがあるとする。一方現在完了形は、際立った感情的含意を伴って、感嘆文で perfectivo の価値をもつことがあるという。また、接続法過去完了形の代わりとして、条件文の条件節で、やはり感情的な意味を伴って用いられることがあるとする。

⁴⁹ こうした時間表現がない場合でも、同様の“valor perfectivo”はとらえられるとされる。

Hoy compré un libro precioso. 「今日私はすばらしい本を買った。」

Esta mañana llovió un poquito. 「今朝少し雨が降った。」

¿Qui'hubole, mano? ¿Ahora no chambeaste? 「調子はどう？仕事はなかったのかい？」

Hace rato vi a tu hermano. 「少し前に君のお兄さんに会った。」

一方、現在完了形の a) “durativo”の性質については、継続的、未完了的行為、つまり過去に始まっていても現在まで継続し、さらには未来に向けても投影しうる現象を表す特徴として説明されている。

“la forma compuesta expresa acciones durativas e imperfectas; fenómenos que, aunque iniciados en el pasado, se continúan en el momento presente y aun pueden proyectarse hacia el futuro” 「現在完了形は継続的および未完了的行為を表す。つまり、過去に始まっていても現在において継続し、未来に向けても投影しうる現象を表す。」 [Lope Blanch, *ibid.*: 377]

Desde entonces sólo he sido una carga para ti. 「その時以来私は君にとって単なる重荷になってきた。」

¿Sabes que tu socio te anda robando? —Sí, hombre; siempre lo he sabido. 「君の仲間が君から盗んでいるのを知ってるか？」「ああ、ずっと知っているよ。」

Pero ¿cómo? ¿Tú con lentes? —Pues claro; yo siempre los he usado. 「でも、君が眼鏡なんてどういうこと？」「そりゃそうさ、私はいつも眼鏡を使ってきたのだ。」

次に各形式の b)のアスペクト的特徴(単純過去形の“puntual”、現在完了形の“reiterativo”)について、単純過去形は点的、個別的、単一的な行為を表し⁵⁰、現在完了形は反復的な行為を表す⁵¹とする。

“la forma simple expresa acciones puntuales, hechos individuales, únicos, en tanto que la forma compuesta significa acciones reiteradas, hechos repetidos, que se han verificado en varias ocasiones” 「単純過去形は点的な行為、個別的・単一的な出来事を表し、現在完了形は何回も生じた反復的行為、繰り返

⁵⁰ この“puntual”と前述の“perfectivo”の違いは、例文を見た限りでは明瞭とはいえない。Lope Blanch は、この“puntual”というアスペクト的特徴を反映した現象として、desde que 節, cuando 節, cuándo 疑問文の中では単純過去形しか用いられないことをあげている。しかしながら、ここでの puntualidad はこれらの接続詞の意味によって際立っているに過ぎず、時制形式そのもののアスペクト的特徴としては“perfectivo”と区別する必要はないと思われる。

⁵¹ ここでの durativo / reiterativo の区別も、動詞の語彙的なアスペクトや副詞類、文脈に依存するもので、時制形式そのもののアスペクト特徴としては区別する必要はないであろう。

された出来事を表す。」 [Lope Blanch, *ibid.*: 378]

この違いは次のような例で明瞭であるとされる。

Eso ya lo *discutimos* ayer. 「そのことはすでに昨日議論した。」

Eso lo *hemos discutido* muchas veces. 「そのことは何度も議論してきた。」

¿Te *acordaste* mucho de mí? [en una ocasión determinada] 「私のことを[ある特定の機会に]よく思い出してくれた？」

¿Te *has acordado* mucho de mí? [constantemente] 「私のことを[絶えず]よく思い出している？」

Desde que *caí* enfermo, *he leído* más de treinta novelas. 「病に倒れて以来、30 作以上の小説を読んできた。」

次に、二形式間の時制的特徴の違いとしては、メキシコスぺイン語の場合、現在との時間的距離に関わらず過去の行為を表すのが単純過去形であり、現在における現実性を持ち、未来への投影をももちうる行為を表すのが現在完了形であるとする。

“Cuando se trata de expresar acciones *pasadas*, sean próximas o remotas, se empleará la forma simple, mientras que la forma compuesta expresará acciones que tengan realidad *presente* e incluso puedan tener proyección futura.” 「遠近に関わらず過去の行為を表すためには単純過去形が用いられる。他方、現在完了形は、現在において現実性を持ち、未来への投影をももちうる行為を表す。」 [Lope Blanch, *ibid.*: 379]

A ver, hijito, ¿qué te *pasó*? ¿Dónde te duele? ¿Dónde te *lastimaste*? 「どれ、坊や、どうしたの? どこが痛い? どこをけがしたの?」

¿Qué? ¿Qué *dijiste*? ¡Repítelo, si te atreves! 「何だって? 何と言った? できるものならもう一度言ってみろ!」

Siempre *fué* muy ingenua [se diría de una persona muerta o con la que ya no se mantiene trato alguno].

「いつでも彼は純真だった[亡くなった人もしくはもう全く付き合いのない人について言える。]」

Siempre *ha sido* muy ingenua [ahora también lo es y lo seguirá siendo]. 「いつでも彼は純真だ[今もそうであるし、今後もそうあり続けるだろう。]」

以上から、メキシコスぺイン語の特徴をまとめると、ここでの現在完了形は、過去に始まった事象が現存している場合や、未来にも継続しうる場合に用いられ、半島スペイン語のように、たとえ事象が発話時において現存していなくても関連をもつとみなされればこの形式が用いられる状況とは異なっている。現在完了形のこうした機能と相関して、単純過去形の方は発話時以前に完結した事象、点的な事象であれば、発話時との関連性に関わらず全て表せるという

ことになる。発話時との関連性が問題にならないという点は次のような例に明らかである。前の例は半島スペイン語的な例、後の例はメキシコスペイン語的な例としてあげられている。

Me han dicho que Martín ha puesto una denuncia a los de Telesforo. 「マルティンがテレスフォオーロの人々を告発したという話を聞いた。」

Me dijeron que te casaste. 「君が結婚したという話を聞いた。」

[Lope Blanch, *ibid.*: 380, n.16]

こうしたLope Blanchによる考察は、2.2.2.でとりあげたCartagena (1999)による指摘の通り、時制形式自体がもつアスペクトと、動詞の語彙アスペクト、共起副詞類、文脈などの作用で生み出されるアスペクト的な意味を混同している点で問題があると考えられる。現在完了形は、その基本的な価値において両地域に違いはなく、「ある行為を過去の領域に属するものとしてではなく、現在までに存在した行為として示す」形式である。また、単純過去形についても両地域で共通する部分があり、それは「発話時と関連をもたない過去の事象」を表す点である。メキシコスペイン語の特異な点は、単純過去形の意味領域がさらに広く、「発話時と関連をもつ過去の事象」も表せることである。

こうした問題点は認められるものの、半島スペイン語において二形式の区別に有効な「発話時との関連性」という視点がメキシコスペイン語では関与せず、その結果現在完了形は「拡張された現在」の中で完結した行為を表すためには用いられないという指摘は重要である⁵²。実際、本論文2.3.3.でおこなう調査でも明らかになるように、現在完了形の総数に占める「継続・反復」用法の割合が大きいという点と、単純過去形の「直前の完了」用法が目立つという点を反映させたここでの特徴付けは、メキシコスペイン語の状況と、半島スペイン語との違いをよくとらえていると思われる。

以上の考察をまとめると、二地域における両形式の価値には共通する部分があるものの、その実現としての個々の用法のレベルで頻度的に著しい違いが出るということが言えそうである。つまり、半島スペイン語では現在完了形が担当することが多い「拡張された現在」における完了を、メキシコスペイン語では単純過去形が担当するため、この地域では現在完了形のそ

⁵² Lope Blanch (*ibid.*: 383-384):

En resumen, una de las diferencias más acusadas entre el uso español de los pretéritos y el mexicano es el distinto valor temporal de ambas formas. Contrariamente a lo que sucede en España, en México no se emplea la forma compuesta para expresar las acciones verificadas en el antepresente, en el ‘presente ampliado’, sino siempre la forma simple (“Llegó hace un momento”). 「要するに、それらの過去時制のスペインとメキシコでの使用の間にある最も顕著な違いの一つは、両形式の時制的価値の違いである。スペインと異なり、メキシコでは現在完了形が現在以前、いわゆる『拡張された現在』に起こった行為を表すために用いられず、常に単純過去形が用いられる。 (“Llegó hace un momento” 彼少し前に到着した)」

れ以外の用法の多さが目立つということであろう。

2.3.2. 寺崎 (1979)

寺崎 (1979)は、前節でとりあげた Lope Blanch (1961)の論考について、メキシコの新聞記事における両形式の使用状況の調査をもとに検証している。前述の通り、Lope Blanch (1961)の論旨は、メキシコスペイン語における現在完了形は *durativo* もしくは *imperfectivo* というアスペクト的特徴をもつため、発話時までの(あるいは発話時以降にもおよびうる)継続、反復の用法でしか用いられず、これと関連して単純過去形は発話時以前に完結した事象であれば発話時との関連性の有無に関わらず表せるとするものであった。寺崎 (1979)は、メキシコスペイン語の現在完了形が実際に *durativo* の意味に特化しているのかどうかを検証している。

調査に先立ち寺崎 (ibid.: 139-141)は、現在完了形の基本的用法を、半島の規範(RAE, 1975)に基づいて4類型[(a) 結果の完了、(b) 継続の完了、(c) 直前の完了、(d) 拡張された現在の完了]に大別している。そして各用法に対し、RAE (1975: 465-466)にある例を次のように対応させている。

(a) 結果の完了

La industria ha prosperado mucho. 「産業が大いに繁栄した。」

(b) 継続の完了

Durante el siglo actual se han escrito innumerables novelas. 「今世紀の間に無数の小説が書かれた。」

(c) 直前の完了

He dicho. 「(演説を終えて)以上です。」

(d) 「拡張された現在」の完了

Hoy me he levantado a las siete. 「今日私は7時に起きた。」

Mi padre ha muerto hace tres años. 「私の父は3年前に亡くなりました。」

そしてこれらの用法にメキシコの新聞記事中の用例(111例)を分類したところ、(b)の継続の完了に特化することなく、全類型にわたって例が見られたという。

以下に、各用法に分類されている例の一部を引用してみる(日本語訳は寺崎[ibid.]による)。

(a) 結果の完了

Las [gimnastas] cubanas *han creado* una imagen que no es la que corresponde a su calidad. 「キューバの選手達は実際の能力以上のイメージを作り出した。」

También se quejó de que el sindicato al que pertenece lo *ha abandonado*. 「また所属する組合が自分を見棄てたとも不平を述べた。」

(b) 継続の完了

Empero, éste [un presunto criminal] *se ha negado* sistemáticamente a hacer declaraciones. 「しかし、容疑者は一貫して自供を拒んでいる。」

Las causas de la explosión aún no *han sido* determinadas. 「爆発の原因は、まだわかっていない。」

(c) 直前の完了

“Compañeros —dijo—, *han triunfado*.” 「『同志の皆さん、皆さんが勝ちました。』と述べた。」

Soy un ser débil de carácter y debido a ser también un desadaptado social *he decidido* esto porque no tengo espíritu combativo y siento miedo de vivir y por eso *he tomado* [barbitúricos] ... 「私はとても弱い性格の人間で、また社会から疎外された者ですから、このことを決めました。なぜなら私は戦う気力もなく、生きるのがこわいし、だから睡眠薬を飲んだのです…」

(d) 「拡張された現在」の完了

Ha habido una gran discusión sobre esto. 「これについては大論争があった。」

Por lo que toca al ingeniero Argaes, en los últimos dos meses le *han robado* en dos ocasiones, diferentes cantidades de dinero. 「アルガーエス技師の場合、最近2ヵ月間に2度それぞれ違う金額の金を盗まれた…」

また、類型ごとの頻度、割合は、(a) 結果の完了 30 (27.0%)、(b) 継続の完了 60 (54.1%)、(c) 直前の完了 7 (6.3%)、(d) 「拡張された現在」の完了 12 (10.8%)、(e) その他 2 (1.8%) という結果になったという。この結果を見ると、確かに全ての類型にわたって例が見られ、*durativo* の用例は最も多いものの、この価値に特化しているわけではないことが分かる。

こうした結果を受けて、寺崎 (ibid.: 146-148)は、これら4つの用法が由来するところの基本的価値は半島スペイン語とメキシコスペイン語で共通しており、「あらゆる場合を通じて見出される PC 自体の意味は、ある行為を過去の領域に属するものとしてではなく、現在までに存在した行為として示すということである」とし、「使用の重点に偏りがあるとみられ

るものの、PCの使用される全部の領域については、EMとECに根本的な相違があるとは考えられない⁵³と結論付けている。

確かに、全類型にわたって用例が見られたことは、この形式の基本的価値の地域を越えた共通性を示している。こうした観察は、形式自体の基本的価値とその実現としての用法の区別の必要性を示唆している点で重要である。Lope Blanchによる論考では、この区別がなされておらず、文脈によって生み出されているとみられる価値が形式そのものの価値と考えられていた。つまり、メキシコの現在完了形の用法のうち、出現頻度が際立っている「継続・反復」としての価値が与えられていた。

とはいえやはり強調すべき点は、基本的価値を共有しつつも、用法ごとの頻度において、地域間に大きな差が見られるという事実である。半島スペイン語では「拡張された現在」の完了や直前の完了が優勢であるのに対し⁵⁴、メキシコスペイン語では継続の完了が多いという傾向は、ここで見たメキシコスペイン語の調査において同用法が半分以上の割合を占めていることから確認できる。

一方、単純過去形についても、基本的な時制的・アスペクト的価値に地域的相違はないとはいえ、“¡Ya lo acabé!”や“Hoy compré un libro precioso.”のような場合に、半島では現在完了形の出現が多いのに対し、メキシコでは単純過去形が専ら用いられるという点は無視できない事実である。上記の調査で、現在完了形が「拡張された現在」の完了や直前の完了を表している例が少なかったことも、この傾向を間接的に裏付けていると思われる。

ここでの問題が現在完了形と単純過去形による用法分担のせめぎ合いであることを考えると、一方の形式からだけ問題を眺めるのではなく、両方の形式を同時に観察することが必要であろう。つまり、単純過去形の側からも使用状況を調査してみる必要がある。こうしたせめぎ合いを観察するには、分析するテキストの性質にも配慮が求められる。寺崎(ibid.: 145-146)は、新聞記事を対象とした上記の調査の結果、大部分の現在完了形は人の発言を引用した文に含まれており、地の文では非常に少ないことを報告している。また、メキシコスペイン語型の単純過去形の優勢は口語的なレベルで見られるという指摘もなされてきた⁵⁵。そこで、次節以降では、メキシコスペイン語の口語的なテキストにおける両形式の使用を調査し、半島スペイン語の使用状況との比較を試みる。

⁵³ PC = perfecto compuesto, PS = pretérito simple, EM = español mexicano, EC = español castellano.

⁵⁴ Alarcos (1980³: 48-49)

⁵⁵ Lope Blanch (1961: 374, n. 2), Cartagena (1999: 2946).